



国民の森林・国有林

中部森林管理局

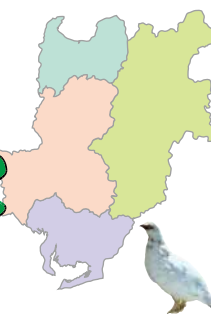
〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



カラマツ黄葉写真コンテスト優秀賞「カラマツ万歳」 撮影箇所：長野市戸隠

主な項目	○ 公共施設にもっと木材を!..... P2
	○ 国産材型枠合板の実証試験現地検討会を開催..... P2~3
	○ 林政記者クラブの国有林視察実施..... P3
	○ 各地からのたより..... P4~6
	○ シリーズ「森林官からの便り」..... P6~7
	○ シリーズ「ご当地自慢」..... P8

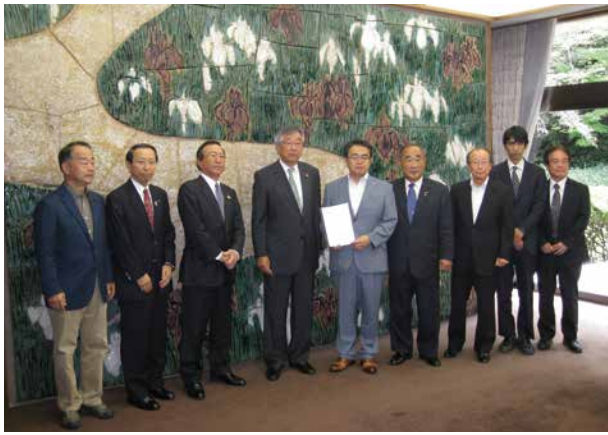
公共施設にもっと木材を!

愛知県知事・名古屋市長に

木材利用促進要望

「名古屋事務所」木づかい推進月間中の十月八日(火)に、愛知県木材利用推進協議会(鈴木和雄会長)と同行した名古屋事務所長は、愛知県庁、名古屋市長、東海農政局などに木材利用促進に関する要望活動を行いました。

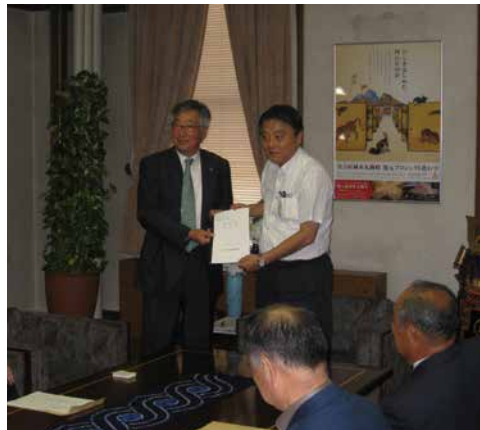
愛知県庁では大村知事や関係部局が出席し、要望書を手渡し公共建築物に木材を多く使用するように要望、理解と支援をお願いしました。



愛知県知事への要望活動

また、名古屋市長所では、河村市長に面談し、公共建築物の木造促進に関する

市町村の基本方針策定を早く決定してほしいと要望しました。河村市長から、小学校木造化について鉄筋で建設するよりも見積もりが高く断念したいきさつの説明があり、名古屋木材組合で設計に当たってフォローしていくことに。また、名古屋のシンボルとなる名古屋城天守閣を木造で復元するという強い考えも示されました。



名古屋市長への要望活動

岐阜県知事に木材利用促進要望

「名古屋事務所」木づかい推進月間中の十月二十九日(火)に、岐阜県木材利用推進協議会(後藤直剛会長)と中部森林管理局が連携し、木材利用の推進に関する要望活動を行いました。

岐阜県知事をはじめ、教育委員会、県議会議長、林政部に対して、「木材の利用促進に関する要望書」を手渡して、公共建築物の木造化、公共工事における木

材利用促進、県産材を使用した木造住宅の建設促進を訴え、理解と支援をお願いしました。

知事からは、「協議会の皆様とはこれまで二人三脚で行ってきた。これからもよろしくお願いします。また、平成二十七年に行われる『第三十九回全国育樹祭』を清流国体と同様に県民参加の形で盛り上げていきたい。」など、理解ある意見をいただきました。



岐阜県知事への要望活動

国産材型枠合板の実証試験 現地検討会を開催

「治山課」十月三十一日に中信署姫川地区の土谷川において、国産材型枠合板を使用した治山工事の実証試験について現地検討会を開催しました。

この実証試験は、公共土木工事で使用

するコンクリート型枠材の多くが、金属製のパネルや南洋材を用いた合板であることから、国産材を用いたコンクリート型枠合板の普及を図るため、中部局、長野県及び信州大学が協同で進めてきたものです。

実証試験では、長野県産ヒノキ間伐材による五層構造の合板を使用し、一般的な南洋材合板と比較しながらコンクリート谷止工を施工しており、型枠合板の「たわみ」、「はらみ」によるコンクリート表面の凹凸や打ち継ぎ目に発生した段差、塗装の着色、ムシレなどの損傷状況について、使用した型枠合板や施工したコンクリート表面を確認し、施工に当たった問題点の把握、また今後の改善点等について検討を行いました。



現地検討会の様子

検討会では、コンクリート表面の仕上がりや型枠合板の損傷状況等が、国産材合板と南洋材合板に遜色がないことや、金属製に比べ軽量であることが報告されました。今後は、型枠合板の転用（使用）回数の確認、施工歩掛等について検証することとしており、国産材型枠合板の利用推進にむけた取り組みを進めていくこととしています。

林政記者クラブの 国有林視察実施



〔総務課〕十一月七日〜八日の両日、林政記者クラブ（中部森林管理局管内加盟社）の国有林等視察を実施しました。

林政記者クラブ五社からは五名が参加し、森林管理局からは次長、総務企画部長、名古屋事務所副所長、広報主任官が同行し、木曽署及び南木曽支署から各現場等で説明を行っていただきました。



木曽官材市売協同組合坂下素材土場の視察

一日目は、今年度から木曽谷で、中部局が初めて取り組んでいる、人工林ブランド化「マルコウ・マルコク木曽ひのき」を森林の状態から製品が出来上がるまでを視察しました。

森林は大桑村阿寺国有林の今年度伐採箇所（林齢百十九年生）を、丸太は中津川市の木曽官材市売協同組合坂下素材土場を、柱等の製品は上松町の木曽官材製品展示場を見ていただき、署及び木曽官材からそれぞれの段階で留意や工夫していること等の説明を行いました。記者からは各視察箇所様々な質問もいただきました。



木曽官材製品展示場の視察

木曽官材では柱等の製品にも「高・国木曽ひのき」を冠して販売しており、一



長野県西部地震治山施工地展望台での記者の皆さん

貫した視察を通じて、人工林ブランド化の取り組みについて、より一層理解していただけたのではないかと考えています。なお、当日は雨のため伐木集造材作業の視察が出来なかったことは残念でした。

二日目は、王滝村の長野県西部地震治山施工地（伝上川・濁川）の視察を行いました。

当地は、地震発生（昭和五十九年九月十四日八時四十八分発生）から三十年を迎えようとしています。これまでの施工の成果や森林ボランティア等の協力を得て森林に還元している状況等の視察をしていただきました。

続いて、国有林材を原材料としてヘギ板を作製している上松町の小林ヘギ板店を訪問し職人技を視察しました。次に、中部局から木曽町へ譲渡した旧帝室林野局御料庁舎の木曽町での保存・改修工事（当時の仕様を復元し保存するため工事を施工中）を視察しました。

中部局が地域に貢献しながら事業に取り組んでいる点等のPRが出来たのではないかと思います。

各視察箇所、記者からは多くの質問もいただき、有意義な視察となりました。

今後もこのような機会を設け、中部森林管理局の取り組みについて、効果的に情報発信していきたいと考えています。



小林ヘギ板店の視察

准フォレスター

連携会議の開催

「技術普及課」准フォレスター研修修了生が一堂に会し、准フォレスターとしての活動報告、現地検討会を通じ、今後の准フォレスターとしての活動に生かすことを目的に各県・府・市民有林関係者十七名（うち研修修了生十六名）、中部森林管理局から十九名（うち研修修了生九名）参加のもと准フォレスター連携会議を十一月六日から七日にかけ岐阜県下呂市、中津川市で開催しました。



連携会議参加者の方々

一日目の全体会議では、准フォレスターとしての活動報告を各府県参加者から七課題、中部森林管理局参加者から三課題の計十課題の発表が行われました。民国准フォレスターが連携した森林共同施業団地設定への取組や准フォレスターと森林施業プランナーとの連携事例の発表など、それぞれの担当する地域や役割によって具体的な活動内容や活動するうえでの問題点等が発表され、発表を聞いた参加者からは准フォレスターとしての取組を具体的に知ることができ、また、他県の活動から共通点や相違点がわかったなどの感想がありました。

二日目は、現地検討会として、岐阜森林管理署管内乗政国有林の架線集材箇所において、架線集材の概要について岐阜署柴山森林技術指導官、井上森林技術支援センター所長より説明、一般材比率の向上と有利販売のための採材・仕分けについて松本森林整備部長より説明、採材木を見ながらの検討を行いました。地形や集材量等によっては有利なエンドレスタイラー式による架線は、近頃は見かけなくなり、技術の継承の面からも現状を知っていただき、また、傷や曲りを避けて採材することで、価格面に大きな差が出ることを再認識していました。

その後、東濃森林管理署管内加子母裏木曾国有林の木曾ヒノキ備林に移動し間島東濃署長、鈴木森林整備官の案内で、本年執り行われた第六十二回神宮式年遷



現地研修の様子

宮御用材伐採跡地の見学や岐阜県の名木にも指定されているヒノキとサワラの合体系木を見学しました。参加者からは以前から見えたかった木曾ヒノキ備林が見られて良かった、是非研修の場として使わせてほしいといった意見がありました。

二日間を通じ研修生間の情報交換、技術・知識の共有の良い機会となり、次回開催を望む声もありました。このため、意見交換会の時間の設定や、現地検討会のメニューなど検討し、准フォレスターのフォローアップ、連携の取組を進めていく予定です。

各地からのたより

カラマツ新緑写真コンテスト

入選作品を撮影地の町村へ贈呈

「東信署」本年度実施したカラマツ新緑写真コンテスト入選作品を十一月五日に、署長より作品の撮影地である佐久穂町、小海町、南牧村の各町村長へ贈呈しました。

佐久穂町長からは、「青年団や消防団に所属していた頃に植林したカラマツである。すばらしいパネルをいただいた。八千穂庁舎に飾りたい。」



佐々木佐久穂町長へパネルを贈呈

小海町長からは、「町木がカラマツであり、小海町にあったパネルをいただきたい。額縁が天然カラマツであることもすばらしい。庁舎ロビーに飾り、広報誌に